

平成30年12月 定例教育委員会 会議録

1. 日 時 平成30年12月25日(火) 開会 16時00分 閉会 17時12分

2. 場 所 福井市役所8階第3委員会室

3. 出席者 教育長 吉川 雄二
教育長職務代理者 佐藤 藤枝
教育委員 木村 敦子
教育委員 春木 伸一
教育委員 多田 和博

<事務局職員>

教育部長	内田 弥昭
少年対策参事官	北川 登
教育次長兼図書館統括館長	齊藤 正直
生涯学習室長	桑原 浩明
教育総務課長	久々津 久和
学校教育課長	小林 真由美
保健給食課長	坂井 小由里
青少年課長	下山 博幸
スポーツ課長	西行 裕
文化財保護課長	天谷 賢一
図書館長	渡邊 正英
みどり図書館長	橋詰 豊
桜木図書館長	道佛 浩二
調整参事	塩見 伸治
教育総務課副課長	前川 昌司
教育総務課主幹	吉田 浩一

4. 議 題

協 議

(1) 平成30年度第1回福井市総合教育会議について

報 告

(1) 12月定例市議会の質疑について

(2) 平成29年度児童生徒の問題行動調査・不登校状況等生徒指導上の諸問題に関する調査(福井市確定値)について

5. 議事の経過

(1) 開会、教育長あいさつ

(2) 会議録署名委員の指名 春木 伸一 委員 多田 和博 委員

(3) 議事の要旨

吉川教育長	はじめに、協議(1)平成30年度第1回福井市総合教育会議について、事務局から説明を求める。
事務局 (教育総務課長)	今年度の総合教育会議については、これまでもご説明させていただいたが、本日は会議の進め方や、市長との協議の中でどのように取りまとめに導いていくかについて、事務局の考え方をご説明させていただく。 以下、資料に基づき説明
吉川教育長	ただ今の説明について、ご意見ご質問はないか。
春木委員	資料に特別支援学校教諭免許保有率の急落とあるが、何か理由があるのか。
事務局 (学校教育課長)	平成26年度に教員採用試験の方法が変わり、免許保有者は特別支援学校枠で受験するため、合格すると特別支援学校に採用されてしまい、なかなか小・中学校にまわってこない状況であると同時に、特別支援学級自体が急増していることから、免許保有率が急落している。
吉川教育長	教員採用のやり方が変わってしまい、基本、特別支援学校教諭免許を保有している人は特別支援学校に配置されてしまう。最初から小・中学校を受験して、例えば社会科と一緒に特別支援の免許を持っている教員もいるが、数が減ってきている。3年経つと校種間異動があるが、特別支援学校に勤務する教員は普通科や職業科の高校へ異動してしまう。
多田委員	資料中の福井市における支援を必要とする児童生徒の現状について、病気・肢体不自由等による介助を必要とする児童生徒は、文部科学省の示す特別支援教育の概念図のどの部分に該当するのか。
事務局 (教育総務課長)	特別支援学級または通常の学級の中に含まれる。
吉川教育長	平成30年度の福井市においては、介助を必要とする児童生徒6名のうち、4名が特別支援学級である。
多田委員	通常学級に在籍する発達障がいの児童生徒及び発達障がいの可能性のある児童生徒について、福井市では小学校で発達障がいの診断のある児童が年々増加とあるが、誰かに診断されて決まるものなのか。

事務局 (学校教育課長)	就学前に就学相談会を行っており、その中で 20 人程度の就学指導員が面談や観察などのいろいろな検査を行い、みんなで話し合って判断する。ただし、示された判断はあくまで参考であって、最終的に通常学級に行くか特別支援学級に行くか決めるのは保護者である。
吉川教育長	診断そのものは医師が行うのか。
春木委員	そのとおりである。しかしながら発達障がい診断を医学的につけるのは難しい。発達障がいに関しては 5 歳児健診を行っている自治体があるが、なかなか全国的に広がっていない。県内で行っているのは小浜市だけである。主に就学前の発達障がいを見つけて相談に乗ろうというものである。福井市では実施する予定はあるのか。
吉川教育長	今のところ実施する予定はない。学校教育課長の説明のとおり、心配な子は就学相談会での判断を受けるが、強制力はないので最終的には保護者や本人の意思を確認する必要がある。
春木委員	医療的ケアを必要とする児童生徒について、ほとんどの場合は県立の特別支援学校に行くが、他県では症状が重い子どもでも、保護者の意向で地元の小中学校へ通わせるケースが出てきている。本市もそういったことに対応できるよう考えておくべきではないか。
事務局 (学校教育課長)	医療的ケアを必要とする児童生徒は年々増加しているので、今後の対応について考えていきたい。
吉川教育長	介助員の人材がなかなか集まらない。国から 1 / 3 の補助があるが、人そのものがいないのでハローワークで募集しても集まらない。
木村委員	ハローワークにもう少し詳しく情報提供するといいいのではないか。また特別支援学校との連携はできないのか。
春木委員	特別支援学校も足りない状況である。看護協会に相談したことはあるのか。
事務局 (教育部長)	以前、子育て支援室でも看護協会に相談したことはあるが、なかなか紹介できる人材はいないようだ。
吉川教育長	看護師資格を持っていても普通の介助員と同じ給料という待遇面の問題もある。
吉川教育長	他に何かないか。

特に意見なし

吉川教育長

次に報告事項に移る。報告（１）１２月定例市議会の質疑について、事務局から説明を求める。

事務局
（教育部長）

１２月定例市議会の会期は、１１月２７日から１２月１８日の２２日間であり、教育委員会関係で今回上程した議案は「平成３０年度福井市一般会計補正予算」、「工事請負契約の締結について」、「福井市の児童館の指定管理者の指定について」の３件である。これらの議案は１１月定例教育委員会において説明させていただいたもので、１２月１８日の議会最終日において原案どおり可決された。

以下、一般質問および予算特別委員会の質疑の要旨を説明

吉川教育長

ただ今の報告について、何か質問等はないか。

春木委員

小型除雪機の貸し出しについて、小学校と公民館が同じ地区にあるので、公民館のものを貸し出してはどうか。

事務局
（教育部長）

小学校の除雪機も公民館の除雪機も、先ずはそれぞれが優先して使うことになる。その上で公式な手続きを経れば貸し出すことは可能であるが、現実的には条件は厳しい。

吉川教育長

実際は校内の除雪で精一杯で貸し出せないだろう。

佐藤委員

１人暮らしのお年寄り宅の除雪は、民生委員と連携したほうがいい。

吉川教育長

水島議員の学校規模適正化の質問は、特に春山小学校のことを言っているが、場所によっては春山小学校に行くよりも、明新小学校や宝永小学校に行くほうが近い場所もあるようだ。

多田委員

自宅も春山小の校区だが、順化や宝永のほうが近い。

吉川教育長

地区の同意があれば校区の変更は可能だが、なかなか地区の同意が得られない。統廃合すれば当然校区の変更はあるが、そうでない限り校区変更は難しい。

吉川教育長

他に何かないか。

特に意見なし

吉川教育長

次に報告（２）平成２９年度児童生徒の問題行動調査・不登校状況等生徒指導上の諸問題に関する調査（福井市確定値）について、事務局から説明を求める。

事務局 (学校教育課長)	8月定例教育委員会にて速報値をお知らせしたところだが、その確定値が出たのでご報告させていただく。速報値と変わった箇所は無いが、いじめの状況については、平成28年度から基準が変更となり、いじめが終息してから3カ月が経たないと解消とはならないため、増加した数値となっている。不登校の状況については、小中学校とも増加傾向にあり、特に家庭内に原因がある不登校が増えている。
吉川教育長	ただ今の報告について、何か質問等はないか。
吉川教育長	家庭の状況で不登校になるのは、こういったケースがあるのか。
事務局 (学校教育課長)	無理に学校に行かなくていいという親の方針であったり、両親が子どもに関心が無く、子どもが学校に行ったかどうか知らない、半ば虐待に近い家庭もある。
佐藤委員	生活に困窮している家庭なのか。
事務局 (学校教育課長)	そういう訳ではない。親が夜に仕事をしていて朝起きてこないというケースや、両親がうまくいってなくて、お互いが子どもを放置しているケースもある。
吉川教育長	不登校対策は遅々として進まなくて数だけが増えていると、学校は何もしていないように思われがちだが、決してそうではなく、なかなか打つ手が無いというのも現実である。いろいろな人にスクールソーシャルワーカーをお願いして、対応に当たってもらっているが、1人のスクールソーシャルワーカーが抱える人数が多すぎる状況である。
佐藤委員	そのうち登校するようになったりすることはあるのか。
吉川教育長	もちろんある。適応指導教室であるチャレンジ教室に行くことができれば、その後の復帰率は比較的高い。まずは家から出ることが大事である。
吉川教育長	他に何かないか。
	特に意見なし
吉川教育長	予定していた審議事項は以上であるが、他に何かないか。
事務局 (生涯学習室長)	1月13日に開催する平成31年福井市成人式の開催概要がまとまったので、ご報告させていただく。今年度の対象者は2,689名で昨年度より約100名多い人数である。当日の日程として14時から第一部の「式典」、14時30分から第二部の「はたちのつどい」を開催する。

事務局 (学校教育課長)	<p>11月20日に第2回の福井市学校規模適正化検討委員会を開催した。前回の検討委員会で指示のあった、国が今求めている学力や、卒業生である子どもたちの声を報告させていただいた後、大規模校の代表として森田小学校校長、小規模校の代表として殿下小中学校校長に来ていただき、それぞれの学校の実情を説明していただいた。今後の議論の方向性として、福井市としての適正規模をどう捉えるか、どこを対象地区として議論していくかを提案させていただいた。今後は10年以内に複式学級になる小規模校と、児童数が増え続ける見込みである森田小学校を対象に、いくつかのシミュレーションを作成し、それを基に議論いただく予定である。</p>
吉川教育長	<p>この議事録は公開しているのか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>現時点では公開していないが、情報公開請求があればその都度開示される。</p>
佐藤委員	<p>卒業生である子どもたちにアンケートをとったようだが、どういう結果だったのか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>高校生にアンケートをとった結果、中規模から大規模校に在籍した生徒達は、何においても大勢いたほうが楽しいという意見が多かった。一方で小規模校は小規模校なりの良さもあるようだ。複式学級に在籍したことのある生徒の意見では、複式学級にいと違う学年の学習内容が聞ける反面、先生の話が聞き取りにくいという意見もあった。単学級に在籍したことのある生徒の意見では、自分の成績がクラスの中でどれくらいかは分かるけど、そのクラスが学校全体で標準的な学級なのかどうかは掴みにくいという意見もあった。アンケートの最後で大規模校と小規模校どちらがいいかという設問では、63%の生徒が大規模校がいいとの意見であった。</p>
多田委員	<p>福井県は学力、体力とも全国上位であるが、大規模校や小規模校との関連はあるのか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>全国学力学習状況調査の結果を見ても、学校の規模との相関関係は特に見受けられない。</p>
吉川教育長	<p>特に小規模校は1人の成績で学校全体の成績が大きく変化する。丁寧な教育は規模の大きさに関わらずしているが、児童生徒1人に掛ける先生の手間は、規模の大きさによって差は出てくる。</p>
佐藤委員	<p>体力テストは各校の代表が行うものなのか。</p>
吉川教育長	<p>対象学年全員がテストを実施して、その数値を提出する。</p>

吉川教育長	他に何かないか。
	特に意見なし
吉川教育長	最後に事務局から次回の日程についてお願いする。
事務局 (教育総務課副課長)	次回の定例教育委員会について、1月24日(木)午後3時から、場所は福井市役所8階第3委員会室にて開催するので、ご出席いただきたい。
吉川教育長	以上をもって会議を終了する。

平成31年 1月24日

署名委員 春木 伸一

署名委員 多田 和博

会議録作成職員 吉田 浩一